

テゼからの手紙 2002 年

この手紙は、フランスにある超教派の男子修道共同体「テゼ」のブラザー・ロジェによって書かれ、アジアの23の言語とアフリカの7つの言語を含む58の言語に翻訳されている。

この手紙は、2002年を通してテゼで開かれる毎週の集いにおいて、また世界各地の集いにおいて、黙想の手がかりとなるテキストとして用いられる。

愛しなさい

あなたの生き方すべてで愛しなさい

今日、ひとつの呼びかけが、かつてなかったほどにはっきりと響いています。それは、「人類の間がもっとも深まったこの時にさえ、信頼の道を開きなさい」という呼びかけです。この招きの声が聞こえますか。

自分自身を捧げ、与えることによって、人類の道は絶望への道ではないことを示す人々がいます。わたしたちはその一人になるのでしょうか¹。

悪化し続ける貧困の犠牲者を援助することは緊急の課題です。世界の至るところで、ますます多くの人たちがそのことに気づいています。貧困の中にある人々を支援することは、地上の平和の実現にとって、基本的に不可欠です。

一部の人々による富の蓄積と無数の人々の貧困との間にある不均衡、これはこの時代のもっとも深刻な問題の一つです。わたしたちは、その解決のために、世界の経済に対して全力で何かを行なうのでしょうか。

貧困という不幸も不正も神から来るものではありません。神が唯一お与えになることができるもの、それは愛²。

神がすべての人を限りないやさしさと深い共感をもって見つめておられることを発見するとき、わたしたちは驚きに満たされます³。

神がわたしたちを愛しておられ、もっとも見捨てられた人々をも愛しておられると気づくとき、わたしたちの心は他者へと開かれます。そのと

1 「愛しなさい、そしてその愛を生き方によって表しなさい。」この言葉は、キリストの3世紀後に北アフリカのキリスト者、聖アウグスティヌスによって記された。

2 「神にとって唯一可能なこと、それはご自分の愛をお与えになること。」ニネヴェのイサクという7世紀のキリスト教思想家に由来する言葉。彼は聖ヨハネの福音書を学び、「神は愛」（ヨハネの手紙 1 4& 16）という言葉の長い間黙想した後、この結論に達した。

3 神は地上のすべての人々を愛しておられる。しかし、神はご自身を押しつけたり、ご自分を愛するように人に強要したりはなさらない。

き、わたしたちは人間の尊厳により深く目覚め、こう自問するのです。「どのようにして、地上に信頼の道を整えてゆくことができるのだろう⁴。」

自分がいかに無力であっても、自らの生き方によって周囲の人々に希望の神秘を伝えてゆくように招かれているのではありませんか⁵。

自分自身を単純素朴に分かち与えることによって神への信頼が表わされるとき、他の人々はわたしたちのその信頼に気づきます。信仰は、何よりもそれが生活となるときにこそ、確かなものとなり、分かち合われてゆくのです⁶。

神の現存は息吹です。この息吹は全宇宙を満たしています。この愛、光平和の息吹は、地上に流れ込みます。

この命の息吹によってわたしたちは生まれました。そして、他者との^{ミューオン}交わりに生きるように招かれ⁷、人類に平和の希望を実現するように導かれます。この^{ミューオン}交わりと希望を、わたしたちは^{まわ}周りにいま輝き出させるのです⁸。

聖霊によって、神はわたしたちの存在の深みを貫かれます。神はご存知です。わたしたちがどれほど神の愛の呼びかけに^{こた}心えようとあこがれているかを。だからこそ神にこう問うことができます。「わたしに何をお望みですか。どのようにしたらそれが分かりますか。わたしの心は苦悩しています。どのようにしたら、あなたの呼びかけを理解できますか。」

すると心の沈黙の中から答えが湧き上がります。「他者のために勇気を出して自分の生涯を捧げなさい。そうすればあなたの存在の意味が見つかる。」

いつの日か、こう神に言うでしょう。

「あなたの呼びかけに^{こた}心えないまま、日々が過ぎ去りました。自分には本当に神が必要だろうかと思うことさえありました。ためらいや疑いゆえに、あなたから遠ざかってしまったのです。」

「しかし遠く離れてしまったときでさえ、あなたは待っていてくださいました。見捨てられたと思っていたのに、あなたはわたしのそばにおられたのです。」

「日々、あなたはわたしの中にある単純でのびのびとした活力を新たにし、キリストに対して『はい』と答え続けることができるようにしてくださいませ。あなたのわたしへのまなざしは、深い思いやりにあふれています。それによって、わたしは最期の時までキリストへの『はい』を生き抜くことができるのです。」

4 一人ひとりの内に置かれた神の愛は尊い宝。この宝から、生涯にわたって続く共感の力が湧き起こる。

5 テゼ共同体には、南側の諸大陸で暮らす極貧の人々と生活を分かち合っているブラザーたちがいる。このことがいかに大切であるか、わたしたちはこの何年もの間気づかされている。例えば、数人のブラザーたちはこの27年間/ングラデシュで生活している。彼らは、病気や障害を担う人々を支援し、貧しい人々を招いて一緒に食事を分かち合う。また、貧しい家庭の子どもたちのために小さな学校を開いている。そして、始めの頃から、イスラム教の人々との信頼関係を築いている。

6 自分自身を忘れるほどまでに、他者に自分の生を捧げ与えることが可能なはずである。テゼではこの40年以上、シスターたちが訪問者たちの迎え入れを手伝っている。彼女たちは、若い女性たちに耳を傾け、理解することに心を砕いている。このシスターたちが若者たちを歓迎する様子を見ていると、わたしたちは確信をもってこう言う。「この人たちは、福音の宝である」と。

7 キリストが地上に来られたのは、新しい宗教を始めるためではなく、すべての人に神との^{ミューオン}交わりを差し出すためであった。神のみこころにおいては、教会とこの^{ミューオン}交わりは不可分のものである。だからこそ、まだ隠されてはいるが、神にあっては真実である不可分の教会が、はっきりと表されることが切望される。

8 地上の平和はわたしたち自身の内側から始まる。すでに4世紀、ミラノの聖アンブロシウスはこう言っている。「平和の業を、まずあなた自身の内に始めなさい。あなた自身が平和で満たされるとき、その平和を他の人々にも持ち運ぶことができるのです。」

生涯を通して誠実であり続けるためには、つねに目を覚ましていることが大切です。

生涯を通して聖霊はわたしたちの心の夜に訪れ、わたしたちの全存在を徐々に変容させてゆくのです⁹。

新しい科学技術が過去には想像もできなかった進歩をとげるなかで、内なるいのちの根源的な価値を軽んじることがあってはなりません。それは、他者への深い共感、単純素朴な心や生活、神への謙虚な信頼、澄みきった喜び¹⁰。

福音は、わたしたちの中に、他者への限りなく深い共感と思いやりを目覚めさせます。しかしこれらは何もせずに与えられるものではありません。目を覚ましていなければ得られないのです。そして、共感と思いやりの価値に気づくとき、わたしたちは発見するのです。「他者を幸福にしようと努めることによって、わたしたちは自分自身から解放される」ということを。

愛をもって他者を見つめると、しだいに人間の魂の美しさが見えてきます。

単純素朴な心と生活は、曲がりくねった道に迷うことからわたしたちを引き離してくれます¹¹。

福音のもっとも驚くべき点は赦しです。神がわたしたちを赦し、わたしたちもお互いに赦しあうよう神が求めておられるのです。罵られ虐げられた時でさえ、キリスト・イエスはだれかを **脅** すようなことはありませんでした。イエスは赦したのです¹²。神の内に生きておられるイエスは、赦しという自由を与え続けられます。

神には人を罰する意志がありません。

赦すことによって、神はわたしたちの心を傷つけたもの - 時には子どもころや思春期から続く傷 - を取り去られます。

神にすべてをゆだねなさい。わたしたちの悩みさえも。すると気づくでしょう。わたしたちは愛され、慰められ、癒されることを¹³。

福音の中で、キリストがわたしたちを悲しみや陰鬱に招くことは決してありません。それどころか、キリストはわたしたちの手の届くところに平和な喜びを、そして聖霊の内にある歓喜さえも、用意してくださいませ¹⁴。

最近テゼで一年間過ごしたアフリカの青年は、大きな不幸の後どのように喜びを見出すようになったかを話してくれました。七歳のとき父親が殺

9 テゼ共同体の初期の頃、わたしたちは日々キリストの呼びかけに応えようとすれば、そこには呼びかけへの疑いの気持ちも日々生じることに気がついた。わたしたちは「どうすれば、この呼びかけの中にとどまることができるだろうか」と自問した。するとやがて「聖霊の力によって生涯召命を生き抜くことができる」と気づくようになった。又、生涯をかけた誓いをしなければ、召命に忠実であり続けることはできないことも明らかになった。

10 正教会の神学者オリヴィエ・クレマンの次の言葉は、わたしたちにとって大きな支えとなっている。「テゼのキーワードのひとつは『信頼』です。欧州を始めとする世界各地で開催されるテゼの集いは、『地上における信頼の巡礼』の一環を成しています。『信頼』という言葉はもっとも謙虚で、かつ日常的な、素朴な言葉のひとつですが、もっとも本質的な言葉のひとつでもあります。信頼のなかに、愛の神秘、交わりの神秘、そして神の神秘があるのです。」(Taizé, A Meaning to Life, p69)

11 テゼ共同体において、単純素朴さと他者への思いやりは不可欠な価値である。それらは交わりの美しさの、最も光り輝く側面といえるかもしれない。

12 ペトロの手紙 1 2:21-25

13 特別な賜物を持つ人に、自分を束縛するものについて語ることによって、わたしたちはその束縛から自由になれる。そのような人が信仰を通して与えられた賜物とは、人の心の奥深くに何が横たわっているのかを識別し、思いやりを持ってわたしたちの話や話を聞くという賜物。このような人と語り合うことによって、赦しの確かさを知るようになる。

14 ヨハネによる福音書 15:11、ルカによる福音書 10:21

15 「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源。」(ネヘミヤ記 8:10)

16 創世記 2:7

され、母親は彼を置いて遠くに逃れねばならなかった彼の話です。

「子どものときから知ることのなかった親の愛を再び味わいたいと望んだのです。そこで、自分の内側に喜びを探しました。苦悩のただ中にいるときも、それがわたしに力をくれると期待しながら。この内側の喜びによって、わたしは子どものころの孤独感を後ろに置いて歩き出したのです。日々のさまざまな関係を変えてゆくために、そして心の平和を生きるために、この喜びがいかに大切かを知らされました¹⁵。」

神は、一人ひとりに魂を吹き込まれました¹⁶。この魂は目には見えません。神が目に見えないのと同じように、この魂にこそ、神との^{コミュニケーション}交わりへのあこがれが生まれるのです¹⁷。

どうしたら、この^{コミュニケーション}交わりは^{リアリティ}現実のものとなるでしょう。わたしたちは、祈りの中で神と真に出会うことができます。ことばによる祈り、そして沈黙の祈り¹⁸。

歌の美しさに支えられながら人々と共に祈ること、これほどわたしたちを神に近づけるものはありません¹⁹。

「神との^{コミュニケーション}交わりはけっして終わることがない。死もそれを終わらせることはできない。」こう気づくとき、心は平和になります。この^{コミュニケーション}交わりは、虚無への道ではなく、永遠の命への道をわたしたちが開きます。そこでは、神がわたしたちの魂を限りなく迎え入れてくださるのです。

わわたしたちの内に疑いがあるときさえ、聖霊はそこに現存し、^{とど}留まり続けます。平和な日々だけでなく、渴ききった日々にも。

わたしたちは福音の内に生きる貧しい者ではありませんか。貧しい者の信仰は、神の現存をお迎えするのに十分なのです²⁰。そして、この「お迎えしたい」というあこがれは、もうそれだけでわたしの魂に命を戻らせるのです。この地上でも、そして永遠に。

17 聖書では、「魂」という単語が、「あこがれ」や「希求」を意味する場合があります。人の魂は神を求めている。「神よ、わたしの魂はあなたを求め。」(詩編42:2)「わたしの魂は、夜あなたを探し求める。」(イザヤ書26:9) 神は人の欲するものを満たしてくださる。「渇いている者は来るがよい。命の水が欲しい者は、値なしに飲むがよい。」(ヨハネの黙示録22:17)

^{コミュニケーション}
18 神との交わりへの単純素朴なあこがれ、これはすでに祈り。聖アウグスティヌスはこう書いている。「神を探し求めること、これはすでに祈りです。もし絶えることなく祈るなら、探し求めることを止めてはなりません。……多くの人は、たくさんのことばで祈ることが長く祈り続けることだと考えていますが、そうではありません。……祈るとき、多くのことばを使うことは止めましょう。心の沈黙で祈り続けるのです。」彼はこうも記している。「神を知りたいと望むなら、あなたはすでに信仰を持っています。」

19 ある人にとっては、教会や自分の部屋で音楽の美しさに耳を傾けることが、観想的に待ち続ける活力となる。

20 教皇 23 世との最後の面会とのとき、そこにはわたしとマックスとアレンの三人のブラザーがいた。それは1963年のことで、彼が亡くなるほんの少し前だった。会話の中で、教皇はご自分が祈りながらどのようにものごとを決断なさるかについてこう語られた。「神さまとお話するのです。」そうしてこう付け加えられた。「とても謙遜に！ とても単純に！」それはちょうどテゼのブラザーたちがキリスト者を訪ねて東ヨーロッパに行くようになったころであった。わたしたちは、彼らに耳を傾けるために、試練のときを生きている彼らのそばに^{とど}留まるために、そして正教会の信仰をもっと理解するために東ヨーロッパに向かった。現在、実に多くの正教会の若いキリスト者をテゼに歓迎できることをありがたく思う。正教会の魂の中心、それは観想的に開かれた祈りであることに気づかされたのはなんと幸いなことだろう。

テゼ^{コミュニティ}共同体についての問い合わせ：

Taizé Community

71250 Cluny FRANCE
Tel:(+33)385-50-30-30
Fax:(+33)385-50-30-15
E-mail:community@taize.fr
Web:http://www.taize.fr

または

黙想と祈りの集い準備会

〒177-0042 東京都練馬区下石神井 6-43-5
Tel&Fax:03-3997-7178
E-mail:ui2001@nifty.com